

ざおうまち

架け橋通信

遊びは学び、学びは遊び、やってみたいが学びの芽！

令和8年7月発行 N O . 3 蔵王町教育委員会



我が校のスタートカリキュラムの実践紹介！

6月30日（火）第2回架け橋プログラム作成委員会を開きました。そこで、小学校の先生方から、各校のスタートカリキュラムがどのように活用されたか、1年生との生活やカリキュラムによって見えてきたことなどを話していただきました。

- 本校の年間計画に入れてあるので、1年生の始まり2週間程度、普通の授業ではなく、細かくいろいろなことに取り組み、スムーズに小学校生活に移行できるようにしました。
- 園での活動や生活のルールを児童と確認して、学校生活で生かせるものはそのまま継続しました。
- 学校のルールやきまりのイラスト等を作って表示し、児童が見ながら動けるよう工夫しました。
- 児童が学校に慣れることができるよう、楽しく歌やダンスを取り入れています。
- 雨の日にも楽しめるよう、園で経験していた塗り絵などを作って遊びたいと思っています。
- 園で遊びを通しての学び（しりとりや言葉集め、水を怖がらない）等が学校でも生きています。
- スタートカリキュラムの活用で、学校は楽しい所、学ぶ所という意識があり、児童はスムーズに学校に来ています。

カリキュラムがあるということだけではなく、
児童の気持ちを思いながら活用されているところが素晴らしいと感じました。

幼児教育

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育成する。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

※円滑な接続の手がかりとして活用

裏面参照

小学校教育

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施する。

到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。また、幼児の自発的な活動としての遊びを通して、幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力が一人一人の発達の特성에応じて育っていく中で、幼児の姿として表れていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する。

文部科学省「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」より

今回の架け橋プログラム作成委員会は・・・

8月27日（木）15：00から、ございん第2会議室で行います。架け橋プログラムの様式を決定させ内容の検討や入力・作成を行います。幼稚園・こども園の遊びや生活を、小学校1年生の学習と生活に結び付けられるよう、委員の皆さんとコミュニケーションを大切にしながら取り組みます。各施設の先生方が繋がるという、もう一つの架け橋プログラムのねらいも達成です！

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

家庭・幼児施設・教育施設がそれぞれの立場で、共有したい内容です。

●健康な心と体●

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

●自立心●

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うため考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

●協同性●

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

●道徳性・規範意識の芽生え●

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

●社会生活との関わり●

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

●思考力の芽生え●

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

●自然との関わり・生命尊重●

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

●数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚●

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

●言葉による伝え合い●

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

●豊かな感性と表現●

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。